



扶助者聖マリアのノヴェナ
2021年5月15日～23日



「立ちなさい。お呼びだ」(マルコ 10:49) (マルコ 10:46-52)

ノヴェナの流れ

19:30 ロザリオの祈り

聖書の言葉

コメント

扶助者聖母マリアのご像の紹介

証

最後の祈願 (ドン・ボスコが作成した扶助者聖マリアへの祈り)

祝福

ドン・ボスコが作成した扶助者聖マリアへの祈り

「おお、マリアよ、力あるおとめ、
輝かしい教会の母、
素晴らしいキリスト者のたすけ、
戦いにおいて配置された軍勢のような力をもち、
世界のあらゆる異端をうちこわし、
不安や苦難、
困難において敵から私たちを守るマリアよ、
私たちが死を迎える時、
魂を受け取り、
天国へと導いてください。
アーメン」

マルコ 10・46-52

^{10・46}イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、ティマイの子で、バルティマイという盲人が道端に座って物乞いをしていた。⁴⁷ナザレのイエスだと聞くと、叫んで、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と言い始めた。⁴⁸多くの人々が叱りつけて黙らせようとしたが、彼はますます、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けた。⁴⁹イエスは立ち止まって、「あの男を呼んで来なさい」と言われた。人々は盲人を呼んで言った。「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ。」⁵⁰盲人は上着を脱ぎ捨て、躍り上がってイエスのところに来た。⁵¹イエスは、「何をしてほしいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。⁵²そこで、イエスは言われた。「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」盲人は、すぐ見えるようになり、なお道を進まれるイエスに従った。

扶助者聖マリアのノヴェナ

1 日目 (5 月 15 日 土曜日)

自分が住んでいる場所の現実を見る。

エリコ(46)

^{10・46} イエスが弟子たちや大勢の群衆と一緒に、エリコを出て行こうとされたとき、ティマイの子で、バルティマイという盲人が道端に座って物乞いをしていた。

<コメント>

調布： 私は、京王線沿線の新宿から特急で 15 分のところある調布市に住んでいます。都心に近く住環境の整った住宅地です。南には多摩川が流れ、古くからの寺社や武蔵野の自然も多く残っており、由緒ある深大寺は今でも多くの人を訪れる人気の観光スポットでもあります。

松戸： 千葉県松戸市は、江戸川を挟んで東京都に接しているので、東京に通勤、通学者が多いベッドタウンです。かつて、私も東京に勤めていました。現在、夫も北総線で人形町まで通勤しています。アクセスは特急で 30 分、便利です。この地域は、建物の規制があるので高いビルはなく、静かな住宅地ですが、最近空き家が少しずつ増えて来ました。

碑文谷： 碑文谷は東急東横線学芸大学駅から徒歩 10 分、都立大学駅から徒歩 20 分のところにあります。敷地内にはサレジオ幼稚園、隣接に目黒星美小学校があります。緑多く静かな住宅地にイタリア式の大きな聖堂があります。

鷺沼： 東急田園都市線で渋谷から電車で 20 分のところに「鷺沼駅」があります。一帯が多摩丘陵上に位置していることから平地は少なく、なだらかなアップダウンが続いています。落ち着いた環境の住宅地が広がる鷺沼は、その住みやすさから若い世代からの支持が高く、首都圏の中では珍しく子どもの数が年々増えています。

成田： 成田教会は公津の杜にあり、成田空港が近いこともあって 20 ヶ国以上の方がミサにいらしているそうです。街並みは新しく最近大学も出来ました。成田教会の一番の特徴は国際的な事だと思います。

四ツ谷： 東京の中心に位置し、都内各地のアクセスが便利なところでは、迎賓館や上智大学などの最寄り駅です。四ツ谷は、都心にもかかわらず整備された緑が多く、都市景観の良好な街です。カトリック麹町教会は、四ツ谷駅のすぐ近くにあり、イエズス会の聖イグナチオ・デ・ロヨラから名前をとり、聖イグナチオ教会と言われています。

土浦： 土浦教会は敷地内にイエズス・マリアの聖心(みこころ)会が経営する聖母幼稚園があります。土浦は東京駅からは常磐線快速で 1 時間ほどかかります。近くには霞ヶ浦があります。レンコン畑が多く地元で収穫できる野菜も豊富、メロンの生産全国 1 位、美浦(みほ)という場所では競走馬の育成が盛んです。世界一の牛久大仏も近くにありま

東京 ADMA 所属教会分布図



浜松：浜松市の今



(地図1) 浜松市は静岡県が一番西、愛知県との県境にあり、日本のほぼ真ん中に位置しています。新幹線のこだまはとまりますが、ひかりは1時間に一本、のぞみはとまりません。人口は男女それぞれ約40万人、合計80万人が住んでいる、政令指定都市です。

太平洋に面し、自然豊かな地域です。浜名湖、弁天島の海水浴場、中田島砂丘などは観光地として有名です。東京方面から向かってくる時、天竜川を渡ると、それは間もなく浜松駅という合図で、降りる支度をする目安になります。

日照時間が日本トップクラスです。つまり晴の日が多く、洗濯物はよく乾くけれど、紫外線いっぱい、というところですよ。真夏の暑い時間はあまり人が歩いていません。

浜松教会は浜松市のほぼ真ん中にあります。浜松駅からはバスで20分ほど、そこから歩いて10分くらいです。高台に建っているのでバス停からは、かなり急な坂を登らなければなりません。お年寄りにはキツイ道です。

畑に囲まれて緑豊かな環境です。すぐそばに佐鳴湖という周囲6キロの湖があり、ウォーキングやバードウォッチングのコースとして人気があります。

現在の浜松市の産業は、製造業が24%を締めていて、ヤマハのオートバイやボート、スズキやホンダの車などの、部品を作っている工場が多くあります。ヤマハの楽器製造も有名です。そのほか、繊維、織物などの工場も浜松には昔からたくさんあります。ここは昔から、「ものづくりの町」と言われ発展してきました。比較的暖かい気候と、水の資源が豊かだったためです。

江戸時代、つまり今から400年ほど昔、ここは浜松宿と呼ばれ、東京と京都を歩いて行き来する人たちが、休憩したり一晩の宿に泊まったりする町でした。(絵) これは当時の画家、歌川広重(うたがわ ひろしげ)が描いた「東海道五十三次」の中の浜松です。旅人が木の下で休んでいる様子で、遠くに浜名湖が見えています。



浜松城らしき建物も見えます。当時は、本陣といっていわゆる高級旅館が6軒、そして庶民が泊まる宿屋が94軒あったと言われています。旅人が行き交う大きな町だったようです。

そして、浜松の隣、現在の湖西には「新井の関所」という、いわゆる検問所のような役所がありました。これは、江戸時代に建てられた、今で言えば入国審査のようなところでした。日本の政治の中心である江戸、今の東京を守るため全国に53箇所あり、そこを通る人は特別な許可書を持っていなければなりません。江戸の町に鉄砲などの武器が持ち込まれることを、厳しく取り締まるのが目的でしたが、「入鉄砲と出女」という言葉があり、国から逃げてくる女の人を捕まえるところでもあったようです。

20世紀に戻ります。私が浜松に住むようになった40年ほど昔、東京と浜松は違っていました。こちらに来た当時、浜松は「電波の谷間、文化の谷間」と言われました。民間のラジオ局は一つだけ、民間のテレビは2局しか観られませんでした。ですから、情報も今ほど入ってこなかったかもしれません。でも、だんだん人口も増え、浜松は発展してきました。大きなホテルが建ち、県立大学もできました。バブル景気で一時は百貨店が4つありました。

しかし、今の浜松は「経済に活気があるとは言えない状況」と経済の専門家は言います。百貨店は一つになりました。町のドーナツ化が進んでいるようです。つまり、人々の消費は郊外へと広がって、町の中心、駅周辺に人が集まらなくなっているということです。

ここ40年ほどかけて、浜松は「多文化共生都市」になりました。南米やアジアの国からたくさんの人たちが働きに来ています。ここには自動車産業、それを支える部品の工場がたくさんあるからです。現在約26000人の外国籍の人が浜松に住んでいます。

その人たちの生活については、2日目のテーマになってきますので、浜松という土地についての話はこの辺で終わりたいと思います。

<扶助者聖母マリアのご像の紹介>



扶助者聖母会の最初の宣教女が来日したときに持参した聖母像

1929年12月14日神戸上陸。扶助者聖母会の最初の宣教女、Sr.レティツィア・ベリアッティ院長様の日本渡来の旅行記に記されています。その時に持参された聖母像です。

扶助者聖母会(サレジアン・シスターズ)は2019年12月14日来日90周年を迎えました。

東京ADMA第1回入会式(2011.7.17)。

私たちの記念の御絵でもあります。

最後の祈願 (ドン・ボスコが作成した扶助者聖マリアへの祈り)

「おお、マリアよ、力あるおとめ、
輝かしい教会の母、
素晴らしいキリスト者のたすけ、
戦いにおいて配置された軍勢のような力を持ち、
世界のあらゆる異端をうちこわし、
不安や苦難、
困難にあってから私たちを守るマリアよ、
私たちが死を迎える時、
魂を受け取り、
天国へと導いてください。
アーメン

<祝福>

